

## 問い 家族に長期の病人が出た場合、その看護や介護をどうしますか？

「男性が主に見る」の回答はごくわずか、まだまだ女性の負担が大きいといえます。「家族が交代で見る」は、男性の46.7%、女性の41.5%

「施設の利用や公的援助を求める」は、男性の29.5%、女性の29.0%が回答しています。

男性 14年 12.0% ⇒ 19年 29.5% (比+17.3%)

女性 14年 20.0% ⇒ 19年 29.0% (比 +9.0%)

前回の調査より公的援助を求める回答が多くなっています。

## 問い 「夫やパートナーから暴力を受けた」ということを、あなたの周りで聞いたことがありますか？

男性の11.7%、女性の20.9%が「聞いたことがある」と回答しています。

### －ドメスティック・バイオレンス(DV)－

夫婦や恋人など親しい(または親しかった)人間関係の中で起こる暴力で、特に女性に向けられる暴力が問題になっています。身体への暴力だけでなく、心身に有害な影響を及ぼす言動も含まれます。

「男性優位・女性従属」の社会構造や習慣から生じる問題として、その対応が急務とされています。



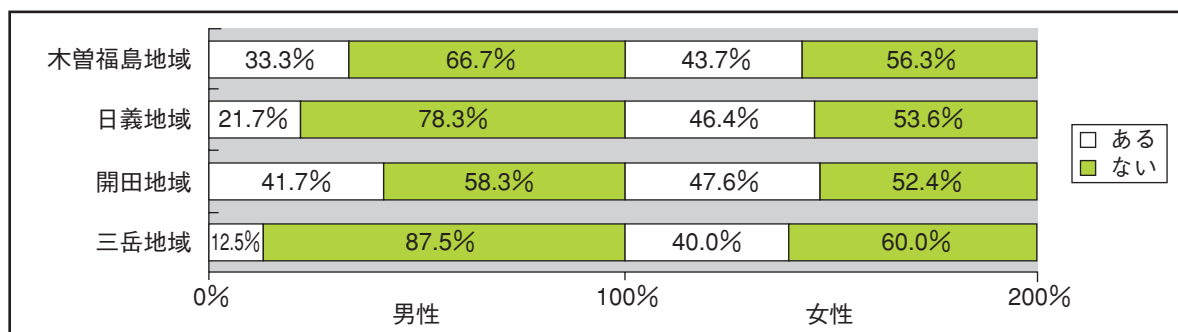
## 問い 区・公民館・議員などの役職について、男性が多い現状をどう思いますか？

男性の65.0%、女性の55.6%が、「もう少し女性が入るべき」と回答しています。

男性と違う角度、視点で物事を見ている女性の意見を尊重し、耳を傾け取り入れたら、男性の気づかない部分を補うこともでき、もっと住みよい社会になるのではないのでしょうか？



## 問い 男女間の差別を感じたことはありませんか？



男性の30.0%、女性の44.3%が、「差別がある」と回答しています。

### ◆◆平成19年9月木曾町男女共同参画アンケートより◆◆

「戦時中、男女差は当然として育ってきた。男女共同参画社会、誠に結構であり遅すぎる感があります。家庭が基礎です。家庭からこの考え方を育てたい」 (70歳代男性)

私たち推進会議でも一層大事にしたい“男女の人権尊重”への取り組みです。「個人として人権が尊重されること」「性別による差別的取扱いを受けないこと」「個人としての能力を発揮する機会の確保」等々、誰もが個性や能力を十分発揮できるように、人間として尊重されるよう地域の皆様と共に、一歩一歩進めていきたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

「きそふくしま男女共同参画社会推進会議」  
代表 加藤ゆみ子  
事務局 木曾町企画調整課(木曾町福島)  
☎ 22-4287 担当 木村 恭一